

加温ハウスモモ栽培における枝梢管理と樹勢コントロール

早生モモの加温栽培では、主枝延長枝から発生した副梢が 20cm に伸長した時に先端 3 芽を摘心することにより、収量・果実品質を落とすことなく、副梢の肥大を制限し、主枝の伸長を旺盛にすることができる。

農業研究センター 球磨農業研究所(担当者：岩谷 章生)

研究のねらい

モモの加温ハウス栽培では枝梢が徒長しやすいため、過繁茂になったり、主枝が弱る傾向にある。そこで、主枝延長時に発生した副梢の摘心を行って生長を制限し、側枝の勢力を主枝に対して弱く保ち、主枝の伸長を旺盛にする。

研究の成果

- 1．20cm 伸長時に先端 3 芽を摘心した副梢は基部径が無処理のものと比較して小さく(図 2)、摘心処理により副梢の肥大が抑えられた。
- 2．秋期までに発生した副梢の数は摘心処理区で多かった(図 2)。処理により副梢発生の間隔が狭くなった。
- 3．摘心処理により主枝の伸長が旺盛になった(図 3)。
- 4．摘心を行った副梢由来の側枝上に着果した果実の収量、1 果重、糖度は処理による影響はみられなかった(表 1)。

以上の結果から、主枝から発生した副梢を 20cm 伸長時に先端 3 芽摘心し、副梢の基部肥大を制限することにより、主枝の延長が容易になるため、成園化の促進には有効であると思われる。

普及上の留意点

- 1．摘心処理により翌年の結果枝数が増加し着果過多になる傾向があるので、適正着果に努める。
- 2．主枝延長枝の背面から発生した副梢は摘心処理を行っても、翌年以降肥大が進むため、日焼け防止用の枝のみを残してなるべくせん除したほうが良い。

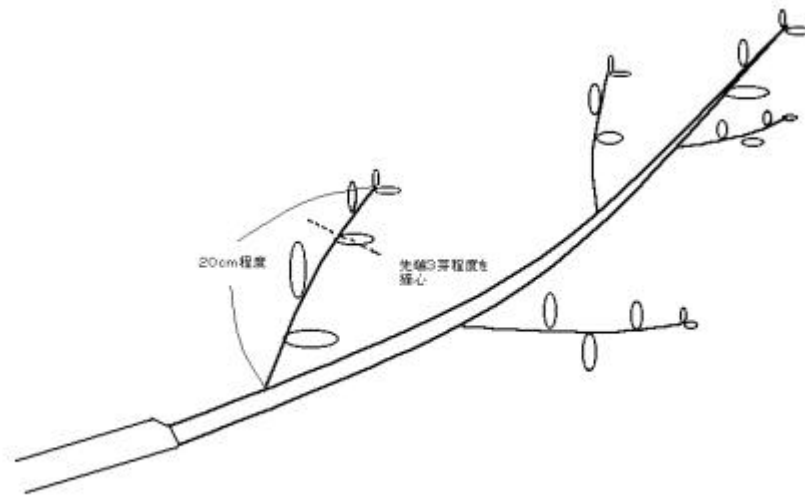


図1 主枝延長枝上の副梢の摘心処理方法

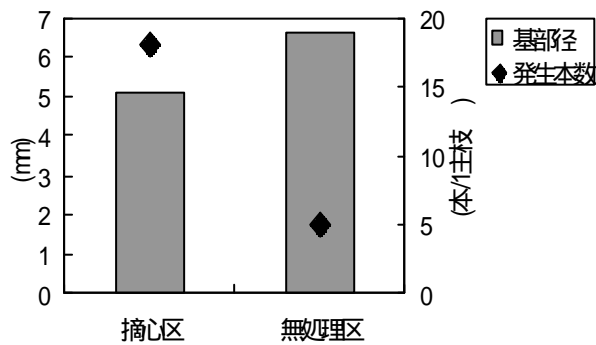


図2 摘心処理が副梢の基部径と発生本数に及ぼす影響

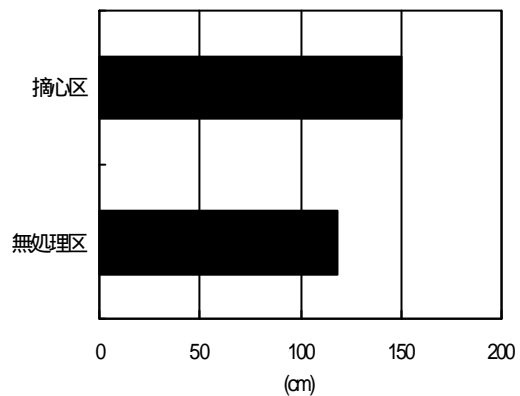


図3 摘心処理が主枝伸長量に及ぼす影響

- * 「ちよひめ」4年生樹 平棚改良H字形
- * 処理は副梢が20cm伸長時に先端3芽を摘心した

表1 副梢摘心処理による収量、果実品質への影響(2001～2002年)

試験区	主枝1本あたりの収量 (kg)	1果重 (g)	糖度 (Brix)	着色*
4年生 (処理)	4.8	146.6	12.2	3.8
(無処理)	5.3	142.7	11.9	3.5
5年生 (処理)	16.7	161.0	10.5	4.5
(無処理)	13.7	175.0	10.9	4.0

*)着色は達観(5(良い)～1(悪い)の5段階評価)